

VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日 時 : 2013年2月9日(土) 10:00~18:00
- ◆ 場 所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : 受講者34名、JICA5名、NIED5名、オブザーバー1名、合計45名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子

■ 今回のねらい

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ。

■ 開催の様子



アイスブレイキング「私は誰でしょう？」



実践報告シートや使用した教材で実践内容の共有



フォーラムで提出するワークショップのプログラムづくり



作成したプログラムの発表・共有

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修ふりかえり／実践の共有」 10:00-12:30

1. 主催者あいさつ／講座全体および第4回のねらいの確認 10:00-[17]
 - ◇ 司会あいさつ、グローバル教育コンクール受賞者紹介、研修全体および第4回のねらいの説明を行う。
 2. アイスブレイキング「私は誰でしょう？」 10:17-[19]
 - ◇ フォーラムにも使う名札づくりを行う。
 - ◇ 背中に貼られた自分の生き物を、会場を立ち歩きペアになった相手に1つだけ質問をし合い、それを繰り返す中で、正解したら席に座る。最後までわからなかった4名に全員でヒントを伝える。
 3. 第1回～第3回研修のふりかえり 10:36-[32]
 - ◇ 各自、第1回～第3回研修のふりかえり資料を読んで、各回印象に残ったことを用紙に書く。グループで、「研修で最も印象に残っていること」と「研修参加を通じた自分自身の変化」を発表し合う。
 4. 実践の共有 11:08-[62]
 - ◇ 小学生、中学生、高校生・一般の対象別に、4～5人のグループになる。
 - ◇ 各自、グループメンバーの実践報告シートを読み、それぞれの実践の「ここいいね&ここをもっと聞きたい」をピックアップし本人に伝え、実践者はそれに重点的に答える形で、実践内容の報告をし合う。
 5. 開発教育・国際理解教育の実践によるより良い変化 12:16-[14]
 - ◇ グループで実践を通じた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）を対比表にまとめる。ギャラリー方式で共有し、その際、良いアイデア3つに☆を付ける。→[成果1](#)参照
- 休憩 - 65min

● セッション2 「実践報告フォーラムのための準備」 13:35-16:30

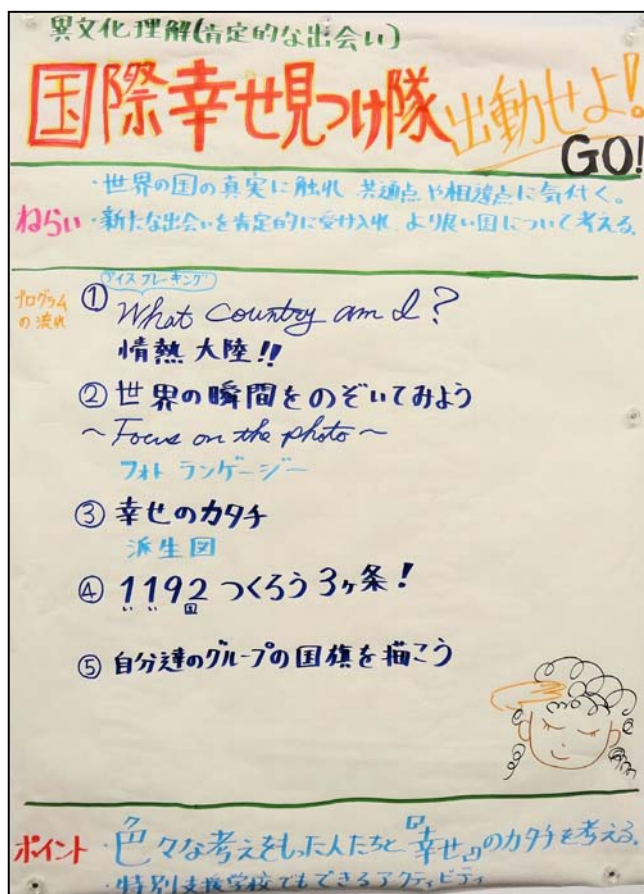
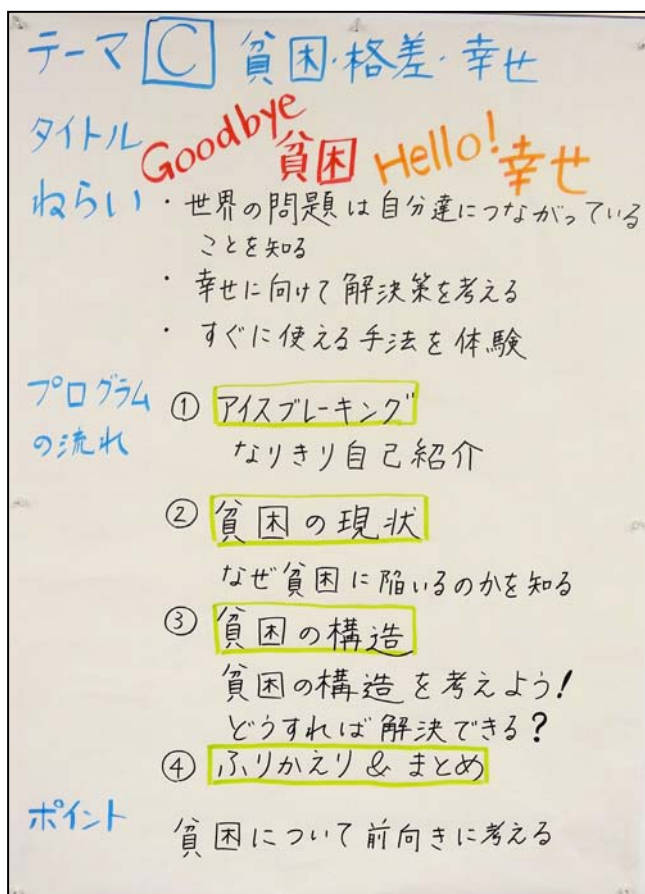
1. 実践報告フォーラム2013の進め方と受講者の動きの説明 13:35-[40]
 - ◇ 事務局が「実践報告フォーラム2013の進め方について」の資料と昨年度の様子の写真（パワーポイント）をもとに、フォーラム当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について説明する。
 2. チームづくりと体験ワークショップ60分の進め方の説明 14:15-[10]
 - ◇ 実践報告シートのテーマごとに事務局が設定したA～Fのワークショップ提供チームに分かれる。
 - ◇ フォーラムでの体験ワークショップの60分の基本的な使い方、時間配分、当日予想される状況について説明する。
 - ①プログラムのうち「アイスブレイキング」「メイン」「ふりかえり」という一連の流れの中で、一部のアクティビティを参加型で提供する。実際に体験しない部分は口頭説明で補足する。
 - ②各ワークショップの参加者は30～40人で、5～6人グループで6グループできる。
 3. チームメンバーの実践内容の共有 14:25-[35]
 - ◇ チームメンバーの実践報告シートを読んで「ここいいね&こういうこともできるかも（可能性を広げる）」を実践者に伝え、それに重点的に答える形で実践内容を報告し合う。
 4. ワークショップのねらいの設定 15:00-[25]
 - ◇ チームで、メンバーの実践をベースに、ワークショップ参加者にどんな気づきを持って帰ってほしいかを派生的なブレインストーミングで書き出し、提供するワークショップのねらいの方向性を定める。
 5. プログラムづくり 15:25-[95]
 - ◇ ねらいを実現するワークショッププログラムを検討し、実践報告シートの様式（テーマ、対象、所要時間、ねらい、内容・流れ、ポイントなど）で模造紙にまとめる。
（※4～5にかけてはチームごとに進捗が異なるため、平均的な時間を記載した。）
- 途中休憩 - 15min

● セッション3 「実践報告フォーラムのための調整」 17:15-18:00

1. 各チーム作成のプログラムの共有 17:15-[29]
 - ◇ 各チームのワークショッププログラムの概要を全体で発表する。→成果2参照
2. フォーラムでの役割などの最終調整 17:44-[14]
 - ◇ 各チームで、ワークショップにおける役割を決め、事務局に用意してほしい必要備品を用紙に書き出す。
 - ◇ 海外研修発表順を決める
 - ◇ 最後にあいさつをする研修受講者代表者を選出する。
3. 事務連絡 17:58-[2]
 - ◇ 明日の実践報告フォーラムの開場時間、集合時間などの周知を行う。

■ 主な成果物

- 成果1：開発教育・国際理解教育の実践によるより良い変化 →次ページに掲載
- 成果2：ワークショッププログラムの例



★開発教育・国際理解教育の実践によるより良い変化★

自分にとって

- ・視点が変わる、価値観が広がる
- ・自分とは違いものを素直に受け容れる
- ・伝えたいことが明確になる。もっと伝えたいくなる
- ・転職したくなった
- ・授業の仕方が変わった
- ・生徒との距離が近くなった
- ・自信を持つことができ自己肯定感が高まる
- ・多様な角度から児童・生徒を見ることができ、良さがわかる
- ・コミュニケーションの大切さを実感し、コミュニケーション力がアップする
- ・参加型授業も準備段階も楽しめ引き出しが増える
- ・積極的になれ、ポジティブな気分になり、モチベーションが上がる
- ・もっと知りたくなる、もっと学びたくなる
- ・人と話すことが好きになる
- ・仲間が増えた
- ・ボランティアに出たくなった
- ・生徒の意見を聞くことがより楽しみになった
- ・学習者から新たな学びを得られた
- ・対象者の変化に感動する

対象者（参加者／学習者など）にとって

- ・楽しく学ぶことができる
- ・よりたくさん意見が出せるようになる
- ・学力以外の面で自分を発揮するようになる
- ・新たな自分の一面を発見する
- ・参加型に特別感を感じ楽しむようになる
- ・多様なもの、他国に興味を持つようになる
- ・行動、生き方、価値観が変わる
- ・積極的になる／やる気になる／学びのスイッチが入る
- ・世界に目を向けるようになり、世界のつながりが見えてくる
- ・仲間と協力したり話し合ったり共有するようになりクラスがまとまる
- ・知り、気づき、自ら考え、共感し、前向きになり、学びの主体者となる
- ・伝えたいこと（考えや気持ち）を伝えられるようになる
- ・仲間の別の一面を知る機会となり仲間との距離が近くなる
- ・物事を肯定的に捉えるようになる
- ・もっと知りたくなり、興味関心が高まる
- ・自己肯定感が高まる
- ・自分の生活を見直すようになる
- ・自分の意見を聴いてもらえることを嬉しく思う
- ・質問がたくさん出るようになる
- ・行動指針を持てるようになる

周囲にとって

- ・共感が生まれる
- ・同僚も実践者になり、学びの輪（機会）が増える
- ・保護者、他学年の協力が得られる
- ・何か始めようと思っている人のキッカケになる
- ・生徒の内面的なことも担任と共有できりようになる
- ・学習者を通じて学習者の家族や地域にも広がっていく
- ・「楽しそうだね、自分もやってみようかな」と他教員が興味を持つ
- ・よい風が吹き、刺激となり、良い意味で周囲が巻き込まれていく
- ・国際理解教育や参加型のよさがわかる人が増える
- ・家族が興味を持つようになる
- ・他人事ではなくなる
- ・運動が生まれる